

取組名称	炭素固定循環型農業を市民と楽しむ			団体設立後の経過年数	75年
応募取組主体名称	アール・タチバナ株式会社	活動地域	富山県	応募取組の活動年数	5年
取組主体の種別	☒ 企業 / ☐ 学校 / ☐ NPO・任意団体 / ☐ 自治体 / ☐ 地域コミュニティ / ☐ 個人 / ☐ ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / ☐ その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / ☒ EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

タチバナグループが行っているリサイクル業の中で、伐採木やダム流木等の未利用木材を活用し木炭を製造している。自社製木炭の有用性の確認のため、長年耕作放棄地であった土地を活用して農業を開始した。農業を通じた地域交流や収穫体験を実施し、子供たちに食と環境教育を行っている。農産物直売所や飲食店に農作物を提供し、富山県産野菜の地産地消を推進している。地域の雇用促進をしており、若手・シニアの新たな雇用を生み出している。

実績の要旨

富山県産の未利用木材を利用した木炭による土づくりを行い、たちばなファームでは0.30tの二酸化炭素を土壌に固定化できた。また、地域の家畜ふん堆肥を利用する有機質資源を活用した農業を実践。1年を通じて、里芋や落花生、ルッコラ等を育てている。2023年の秋には落花生とさつまいもの収穫体験を行い、親子連れ、大学生、地元住民等約100人が参加。2024年には英会話教室と連携し、サマーキャンプとして約200人の親子連れに食環境教育の場を提供した。地元の農産物直売所や飲食店等の販売ルートを確立し、富山の地産地消を実現している。

取組評価の要旨	環境への貢献	未利用木材原料の木炭や有機肥料を利用し、廃棄物の削減と自然環境の保護に貢献。土壌への炭素固定を実現し、脱炭素社会を促進している。
	社会・経済への貢献	富山県産野菜の地産地消を進めている。収穫体験を通じ、子供たちに食の大切さまた資源の有限等広く伝えている。
	地域資源の活用	富山県特産品の里芋をはじめ、富山の気候に合わせた多品種の野菜を栽培。6次産業も行い、保存食として利便性の高い干し芋などに展開。
	普及・汎用性	取引業者を15業者まで拡大。地元住民、観光客等多くの消費者に新鮮な富山県産野菜を届けている。
	革新・ユニーク性	グループで製造している木炭の有用性を確認するため、自社農園で実践している。農業だけにとどまらず、交流の輪を広げる場として活用。
	継続性	地元の直売店、飲食店など取引先業者と協力関係を深めながら、持続可能な地域の資源を循環する農業を営む。

展望の要旨

脱炭素社会に向け、炭の力を最大限に引き出し有機農業の実践を目指す。子どもも大人も楽しく食環境を学び、ライフスタイルを見直すきっかけを提供する